



田舎医者のモチベーション

特定医療法人 谷田会
谷田病院
理事長 谷田 理一郎



谷田病院は甲佐の地で小さな医院から始まり、今年で55周年をむかえます。

急速に変化し続ける社会環境の中で、限られた範囲ではありますが継続して医療を提供できるのは、地域の方々の御支援と熊本の複数の急性期病院の先生方を中心とした優れた医療連携のお蔭と思ひ日々感謝しながら仕事をしています。患者さんの紹介だ

けでなく、研修、病院連絡会などでさまざまな医療情報を提供していただき、また意見を聞いて戴けるのは田舎の開業医にとってはとても有り難いことです。医療の質と安全に思い悩んでいた時に出会った医療マネジメント学会での宮崎院長先生のスピーチでの一言、長谷川敏彦先生の講演に勇気づけられたこと。24回目となった病院連絡会での副院長池井先生の連携に対する真摯な姿勢に感銘を受け、話し合う事や努力を積み重ねる事の大切さを感じたこと。救命救急部部長高橋先生に患者さんを何回も助けて戴いたこと。等いろいろな事、経験が谷田の地域医療を直接的、間接的に支援して戴いていることになっています。

宮崎先生、池井先生と直接会話しただけではありませんので、一人の田舎医者のモチベーションの向上に関与している事を先生方にご存じないと思いますが、これも連携のひとつの成果と思います。

ご縁を大切に育て、少しでも今まで以上に患者さんのお役に立てればと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。当院は紹介状をお持ちの患者様につきまして優先診療を行っていますが、紹介状をお持ちの患者様が重なると待ち時間が長くなることがあります。患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約が可能となりますのでご活用下さい。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。日勤帯であれば

10分以内に返信致します。紹介患者様は予約の時間に来院して頂ければ、長く待つことなく診察を受けることが出来ます。

紹介状のみの患者様につきましても今後も優先診療を行います。FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂ければ、患者様の待ち時間が短縮します。

よろしくお願い申し上げます。

(外来委員長 清川 哲志)

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで



村山 寿彦

病理一般

日本病理学会専門医
日本臨床細胞学会指導医
臨床検査医学会臨床検査専門医
日本病理学会評議員

診療内容と特色

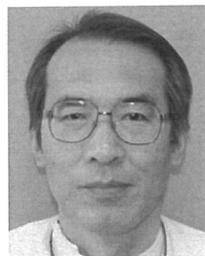
日本病理学会認定施設です。剖検レポートの作成指導をはじめ、CPC、カンファレンスなど積極的に臨床研修充実のために取り組んでいます。

構成は検体検査部門と生理検査部門の2部門から成っています。毎年日本医師会精度管理調査に参加し、高い精度管理を維持しています。施設内の微生物検出状況を詳細に調査し院内感染対策を行っています。開発途上国からの研修生を受け入れ国際医療協力を行っています。

診療実績

平成18年度の病理学的検査は4,974件、細胞学的検査5,129件、病理解剖数は22件でした。

検体検査数は233万件（前年度比6%増）、そのうち生化学検査が最も多く130万件（9%増）、ついで血液



東 輝一郎

内科一般、内分泌・代謝一般
糖尿病

日本内科学会認定医
日本内科学会指導医
日本内分泌学会内分泌・代謝科専門医
日本内分泌学会内分泌・代謝科指導医
日本糖尿病学会専門医
日本人間ドック学会人間ドック認定医
日本医師会認定産業医
日本内科学会九州地方会評議員
日本内分泌学会九州地方会評議員
日本内分泌学会代議員
臨床修練指導医
臨床研修指導医
国際医療福祉大学特任教授
日本糖尿病協会療養指導医

検査56.8万件（7%増）となっています。生理検査は10.5万件（4%増）で、超音波検査が1.5万件（3%増）、心電図検査1.2万件（同一）、肺機能検査は0.7万件（14%減）でした。

年間4回の総合症例検討会（CPC）に加えて、臨床研修医のために1回の教育型CPCを行っています。

研究実績

平成18年度は2編の論文発表と11題の学会発表を行いました。また研究会で多くの発表を行いました。

ご案内

総合症例検討会（CPC年4回、4月、7月、10月、1月の第4水曜日午後7時から、地域医療研修センター）は県内で唯一公開の形で開催し、今後の診療に役立てるための詳細な検討を行っています。

心電図判読FAX（24時間対応）サービスのご案内

下記FAXにお送り頂いた心電図を専門のスタッフが直ちに判読し、所見をFAXあるいはお電話で御返事いたします。

心電図判読専用FAX
096-354-8533

新任職員紹介



外科
みや なり のぶ とも
宮 成 信 友

4月より外科勤務となります宮成信友です。宜しく
お願い致します。

1988年熊本大学医学部卒業後、当時の熊本大学第2
外科に入局致しました。大学、水俣総合医療センター
で研修を行い、大学院に進学しました。大学院卒業後
は、荒尾市民病院を経て、1997年より東京都立駒込病

院に3年間勤務し主に肝胆膵、消化管領域の癌の診療
を行ってきました。2000年から1年間、蘇陽病院に勤
務し僻地診療も経験しました。2001年からは教官職で
大学にもどり、教育、診療を行っております。大学の
診療体制の再編成で消化器外科となり、食道、胃、大
腸癌を専門に診療を行ってきました。2008年4月から、
国立病院機構熊本医療センターに勤務することになり
ましたが、専門とした消化器癌の診療に加え救急医療
も精力的に行い地域医療に貢献していきたいと思っ
ております。今後はご迷惑をかけることもあるかと存じ
ますが宜しくお願い致します。



総合医療センター
血液・膠原病内科
はら だ なお こ
原 田 奈穂子

4月より血液内科勤務となりました原田奈穂子と申
します。1992年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学
医学部第二内科学教室（現血液内科・膠原病内科・感
染免疫診療部）に入局し、17年目になります。第二内
科、済生会熊本病院、熊大病院ICUで研修後、国立熊
本病院（現国立病院機構熊本医療センター）血液内科
で勤務致しました。1996年から熊本大学大学院医学研

究科に進学し、多発性骨髄腫の抗癌剤耐性の解析を行
いました。大学院修了後は国立熊本病院勤務、第二内
科の医員を経て米国ロズウェルパーク癌研究所へ留学、
「癌の新生血管に強く表れている抗原に対する新抗癌
剤の開発」をテーマに、新薬開発の現場で学びました。
帰国後は国立国際医療センター血液内科に勤務、帰熊
後熊大病院の血液内科に勤務致しました。癌を治した
いという思いから医師を志し、振り返れば経歴のほと
んどを造血器腫瘍の勉強をして参りました。今後造血
幹細胞移植についても学び、自分の培ってきた経験と
根性が微力ながらお役に立てればと思っております。
ご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げ
ます。



総合医療センター
内分泌・代謝内科
にし おか ひろ こ
西 岡 裕 子

4月より内分泌・代謝内科に勤務させて頂くこと
になりました西岡裕子と申します。

1998年に熊本大学麻酔科学教室に入局し、大学病院
で研修後は、(旧)国立熊本病院、熊本大学附属病院

救急部・集中治療部、熊本労災病院にて麻酔科医とし
て勤務しました。その後2006年に熊本大学代謝内科学
教室に再入局し、2年間大学病院にて勉強させて頂き
ました。今回6年ぶりに再び国立病院機構熊本医療セ
ンターに、今度は内科医として勤務させて頂くことと
なり、不思議な御縁を感じています。

内科医としてまだ日が浅く、色々と勉強させて頂き
たいと思っておりますので、宜しくご指導ご鞭撻の程
お願い申し上げます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

血管新生療法その後の経過



心臓血管センター
循環器科医長

藤本 和輝

2002年11月に第1例を施行し、現在までに23例施行しました。動脈硬化性（閉塞性動脈硬化症）13例、非動脈硬化症10例（バージャー病7例、膠原病2例、外傷性1例）です。

動脈硬化症13例中10例で自覚症状の改善、消失、または、歩行距離の改善を認め有効でしたが3例で残念ながら下腿切断となりました。1例は、膝下部のその後、悪化し下腿切断となりました。2例は、浅大腿動脈が長い完全閉塞で壊疽を認めた症例です。血管の石灰化が非常に強く、バイパス術が施行できませんでした。一旦、自覚症状の改善を認めましたが、下腿切断となりました。

非動脈硬化症は、すでに壊疽を認めた症例は、最小限度の切断で済み、全例有効でした。

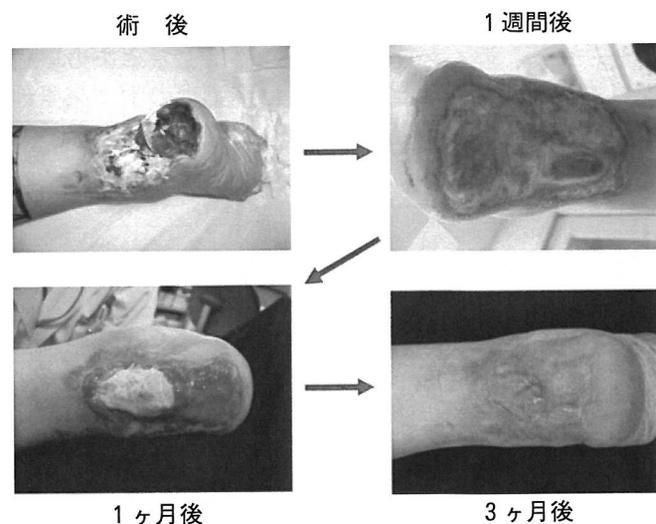
図は、強皮症で治療中、急速に悪化し、両下肢、左上肢の壊疽を認めた症例の治療経過です。術前、左下肢のアキレス腱部は広範囲な壊疽となり、アキレス腱が露出していました。従来の治療でしたら、下腿切断術しか方法がありませんでした。血管新生療法を行いましたら、1週間後、悪化を認めませんでした。その

後、徐々に治癒し（1ヶ月後）、3ヶ月後に完全治癒しました。現在1年経過しましたが経過良好です。

治療の限界と新たな工夫

以上のような結果で、他に治療法がない末梢血行障害に対して、非常に有効でした。しかし、浅大腿動脈が完全閉塞の症例に対しては、効果がなく、血管新生療法の限界と考えられました。

そこで、浅大腿動脈をPTAで治療し、下腿に血管新生療法を追加するハイブリッド療法を行いましたら非常に有効でした。血管の閉塞が長い場合、PTAが必ずしも成功するわけではありませんが、重症例が増加してきており、治療成績を向上させるため、ハイブリッド療法などの新たな工夫を行っていきます。



院内が変わりました

2月8日、アメニティ広場（玄関通りのことす）に展示されている絵画が掛け替えられました。今回も引き続き熊本県立第二高等学校美術科専攻の生徒さんの作品です。今回は「お母さん」「人物」「BLUE」「光の波」「ララバイ」の5点が展示されています。

時折、患者様がゆったりとした様子で絵を見ていらっしゃいます。時に殺伐とした気持ちになりがちな通院・入院生活に潤いを与えてくれるひとときなのでしょう。当院にお越しの際には、お忙しい時間を少しでも割いて頂き、是非一度ご覧下さいますようお願い申し上げます。

またこの度、登録医の先生の御指摘で階段に手すりを設置致しました。

白に近い木目の色合いで、小さな手の方でも十分握れる程度の太さとなっております。

こちらも目を留めて頂ければありがたく存じます。

（庶務班長 牧野 功）



左から順に「BLUE」「光の波」「ララバイ」

国立病院機構熊本医療センター附属看護学校 第59期生卒業式挙行される

桃の香に春の暖かさを感じる3月5日、第59期生は無事卒業式を迎えることができました。色鮮やかなコサージュを胸に卒業証書を手にした41名の表情は、この日を迎えることのできた喜びと、新たな門出への希望で満ちあふれていました。

第59期生は、IT技術を導入した最新設備の新校舎で3年間を通して学習した最初の学年です。恵まれた環境で看護についての知識や技術を身につけ、数々の思い出をつくることができました。臨地実習では、未熟な技術や知識に悔し涙を流しながらも看護とは何かを常に自分に問いかけながら患者様と向き合ってきました。患者様が日々回復していく姿を見ることは大きな自信となり、看護することの喜びを感じると共に、命の大切さを学ぶことにつながったようです。

学校長の式辞では、これからの生活では自立することが求められていることや、自分の未熟さを自覚し、絶えず研鑽を積むことが大切であるとの言葉を頂きました。また、近くだけを見て、遠くにある本来の目標を見誤らないようにという言葉は卒業生の胸に深く刻まれたことと思います。

これから41名は、当院やその他の施設で新しいスタートを切ることとなります。当校の教育理念である「自主・責任秩序・融和」の精神をいつも心にとめ、豊かな人間性と創造性を持って羽ばたいて欲しいと思います。先生方には今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。(第59期生担任 豊田 恵美)



答辞を述べる卒業生代表

研修医レポート

脳神経センター

神経内科

ひら た よし ひろ
平 田 快 紘



2007年4月より国立病院機構熊本医療センターの初期臨床研修プログラムでお世話になっております平田快紘と申します。

今までは麻酔科、救急部、外科、循環器内科、呼吸器内科で研修をさせて頂きました。現在は神経内科で研修をさせて頂いております。

それぞれの科で、様々なことを勉強させて頂きました。ローテートに伴い、様々な角度からの患者様、病気との接し方があることを実感致しました。指導して頂いたことをしっかり身につけ、今後の糧としていきたいと思っております。

研修医になってから1年が経ちました。1日1日がとても早く、あっという間の1年でした。初めて経験することが多く戸惑ってばかりの毎日でしたが、振り返ってみれば、充実した毎日をご過ごせていたと思います。

2年目も、国立病院機構熊本医療センターでお世話になります。まだまだ未熟者ではありますが、一生懸命頑張っていこうと思っております。

今後とも、御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。

麻酔科

まつ やま おおる
松 山 薫



はじめまして。2007年4月より2年間の国立病院機構熊本医療センター専属のプログラムに研修させて頂いております松山薫と申します。

時間が経つのは早いもので、もう1年が過ぎました。私は外科系(外科・麻酔・救急部)と内科系(呼吸器、腎臓内科、代謝内科、神経内科)にて研修させて頂きました。救急指定病院ということで急性期疾患はもち

ろんのこと、腫瘍や慢性疾患、その他稀な疾患も数回体験することができました。外科系では手技的な部分を、内科系では特有の疾患を系統立てて考えることを中心に勉強させて頂いております。

また救急外来の夜勤から日々のコンサルテーションまで非常に多くの先生方にご指導頂き、科の垣根を越えた診療が可能なのも、当院の魅力と思っております。

未だに要領悪く日々の業務に追われている毎日ですが、患者さんと真剣に向きあっていく中で、疑問をもち調べ解決していく面白さを実感しております。

最後に医師として社会人としてもまだまだ未熟ではありますが少しでも成長できるよう努力していきたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

■ 研修のご案内 ■

第80回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶2008年4月17日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 糖尿病ケトアシドーシスをきたした劇症1型糖尿病の1例
国立病院機構熊本医療センター糖尿病センター
児玉章子、西岡裕子、高橋 毅、豊永哲至、東輝一郎
2. メタボリックシンドロームの概念—特定健診開始をふまえて—
国立病院機構熊本医療センター糖尿病センター
豊永哲至、西岡裕子、児玉章子、高橋 毅、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線705

第221回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶2008年4月19日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

- 「救急蘇生」
- | | | | |
|------------|----|---------------------------|-------|
| | 座長 | 熊本県医師会理事 | 岡本 喜雄 |
| 1. 脳蘇生の現状 | | 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ICU室長 | 瀧 賢一郎 |
| 2. 脳保護療法 | | 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 | 高橋 毅 |
| 3. 救急蘇生法実習 | | 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 | 江崎公明他 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第111回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶2008年4月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例提示「不明熱で発症し、両側腸骨筋膿瘍と鑑別を要した透析アミロイド骨関節炎の1例」
国立病院機構熊本医療センター腎センター長 富田 正郎
4. ミニレクチャー「多発性骨髄腫、診断と最新の治療」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 井上 佳子

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下いますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501（代表）FAX: 096-325-2519

第90回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶2008年4月23日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

- テーマ：肺癌の治療中に併発した腸重積の症例（症例70歳代 男性）
- | | | |
|-------|----------------------------|-------|
| 臨床担当） | 国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科 | 松山 薫 |
| 病理担当） | 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長 | 村山 寿彦 |

「咳と体重減少で近医を受診し、胸部レントゲンにて異常陰影を指摘されて紹介となった。肺癌と診断され、化学療法、放射線治療を行っていたが、診断後9ヶ月で腸重積を併発した。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

2008年 研修日程表 4月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

4月	研修ホール	教育研修棟 4階	その他
1日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
3日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
4日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
7日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
8日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
10日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
11日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
14日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
15日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
17日(木)	19:00~20:45 第80回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
18日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
19日(土)	15:00~18:00 第221回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本県医師会理事 岡本 喜雄 「救急蘇生」 1. 脳蘇生の現状 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ICU室長 瀧 賢一郎 2. 脳保護療法 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅 3. 救急蘇生法実習 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他	[日本医師会生涯教育講座5単位認定]	
21日(月)	19:00~20:30 第111回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
23日(水)	19:00~20:30 第90回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「肺癌の治療中に併発した腸重積の症例」		
24日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
25日(金)		17:30~21:00 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
26日(土)	13:30~17:00 第72回 ナースのための救急蘇生法講座<会費制> 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
28日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
30日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会		

(会)会議室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)